

二疊系—石炭系が分布している。州の首都はライン河左岸のマイッツ市にある。

人口14.5万を擁し 州地質調査所もここにある

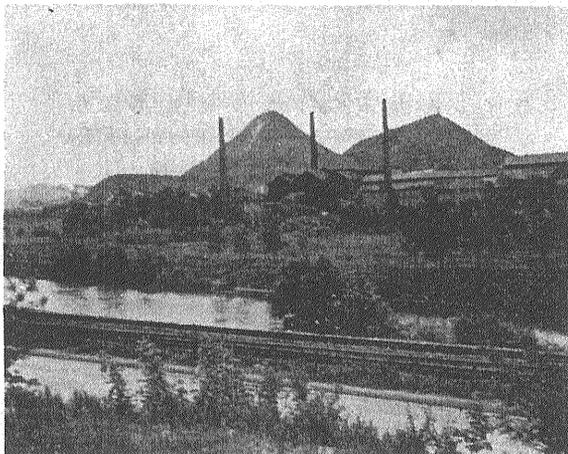
2. 機構・人員配置 科学官5名 研究員8名 技術官8名 事務官5名 事務員1名 自動車運転技術者2名 清掃員2名の総計31名が 州地質調査所の地質調査研究に従事している。

ザールランド地質調査所

(Geologisches Landesamt des Saarlandes)

所在地 6601 Ensheim/Saar, Flughafen

1. 環境 ザールランド州はラインドファルツ州に囲



第22図 ザール炭田のボク山

まれて 南西辺はフランス領と接する。面積はほかの州にくらべるとずっと小さく 南はフェルツアーバルドに 北はフンスルックの山地にいだかれたザール(Saar)盆地の大部分を占めている。ザール盆地の南西辺にはモーゼル河の支流のザール河が流れ 支流に沿ったザールブルッケン市(Saarbrücken)は州の主都である。

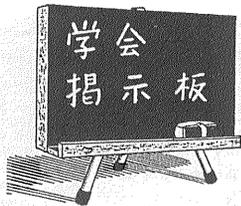
ザールランド州の大部分を占めて二疊系—石炭系が発達し そこに賦存する石炭はきわめて豊富で 古くからザール炭田として開発されている。ザール地方は豊富な石炭資源と ローレンス地方(Lorraine)の鉄鉱石を利用して 製鉄 機械 ガラス 陶磁器工業が発達し ヨーロッパ屈指の重工業地帯を形成している。

ザール地方における石炭と鉄鋼業は 古くからドイツとフランスとの紛争の原因となっている。歴史の変遷はとにかくとして ザール地方は1935年ドイツ領に復帰 第2次大戦後はフランスに占領されていたが 1957年1月1日をもって再び政治上 ドイツ領に編入された。

このようなことからザールブルッケン地方はきわめてフランス的色彩が濃厚である。民家の様式にもその一端がうかがわれ 日常語もフランス語がかなり語られているように見受けられた。州地質調査所はザールブルッケン市の東方約10kmのエンズハイムの町にある。

2. 機構・人員配置 主として地域地質図幅調査研究に従事している。人容としては 科学官2名 研究員3名 技術員2名(製図・実験) 事務員1名(管理事務) 清掃員2名の総計10名が活躍している。

(筆者は地質部)



・石炭科学国際会議

1. 昭和43年6月10日～14日
2. 石炭化作用・熱分解・ガス化・石炭組織に関する講演会
3. Minins Institute of the Czechoslovakia, Academy of Science

4. 石炭科学国際会議

5. Mining Institute of the Czechoslovak Academy of Science, Praha.

・国際写真測量学会

1. 昭和43年7月8日～20日
2. 第11回国際写真測量学会

撮影および航法 図化理論および機械 航空三角測量 地形測量 地形測量以外への応用 用語・教育および歴

史 写真判読の7つの部会ごとに あらかじめ決定された重要な主題について 決められた報告書の報告をもとにして討論を行なう

3. スイス ロザンヌ
4. 国際写真測量学会・スイス写真測量学会
5. Secretariat du XIe Congress International de Photogrametrie : Institute de Photogramme Hriie EPUL 33 Avenue de Cour, 1000 Lausanne, Suisse.

・日本分光学会

1. 昭和43年3月30日(土)～4月1日(月)
2. 第15回応用物理学関係連合講演会
3. 東京工業大学(目黒区大岡山2-12-1)
4. 日本分光学会
5. 東京都新宿区百人町4-400 東京教育大学光学研究所内 日本分光学会 Tel 東京(03)362-7881

[注] 1. 開催年月日 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者 5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)